



つじもと りょうぞう

辻本 亮三 氏

生年月日 明治 29 年 10 月 16 日生

住 所 田辺市むつみ

“青年の主張をテレビに聴きをればなにゆゑとなく涙こぼるる”

明治 29 年 (1896 年) 10 月 16 日、西牟婁郡安居村 (現白浜町安居) において、辻本亀七、ひさ夫妻の三男として生まれる。

大正 5 年 (1916 年) 4 月、東京歯科医学校卒業後、同 8 年 (1919 年) 5 月、浜松市に歯科医院を開業。昭和 2 年 (1927 年) 8 月、総義歯の技術修得を目的としてアメリカに渡り、ワシントン州ヤキマ市の歯科医院に勤務の傍ら、カリフォルニア大学の夏期講習会等を受講し、総義歯の技術を修得。

帰国後、昭和 11 年 (1936 年) 5 月、今福町に歯科医院を開業。アメリカで修得した技術を生かし、名歯科医として 85 歳という高齢に達するまで、地域の歯科医療に多大の貢献をした。

氏は、青年時代から向学心厚く、不断の学習に努め、アメリカ滞在中で国際的な知識を修得。昭和 32 年 (1957 年) 7 月、氏の教育観を高く評価した田辺市教育委員会から強く要請を受け、田辺市中央公民館長に就任。地区公民館と連携を図り、全市的な視野に立った活動に努められ、わが国が戦後の混乱期を経て、まさに成長期にかかろうとしていた節目の大切な時期に公民館事業のあるべき姿を、国際的感覚をもって明確に示され、多忙な歯科医の傍ら、自ら市内の各地に赴き積極的な社会教育の振興に取り組み、なかなづく青少年の育成に大きな功績を残した。

昭和 35 年 (1960 年) 8 月、田辺市教育委員、同年 10 月、教育委員長に就任。アメリカで得た開明的な教育観と自分も、また勉強する好機を与えていただいたという信念で取り組まれ、本市の教育の向上、市民の生活文化の振興に多大の功績を残された。

昭和 56 年 (1981 年) 4 月、85 歳で歯科医院を閉院後、「人生に停年はない、生涯が学習である。」との考えのもとに、自己の趣味を生かし充実した老後を送るべく、大阪中之島の朝日カルチャーセンターの短歌講座に毎週出席し、前登志夫師に短歌を学び、同 60 年 (1985 年)、南紀短歌連盟結成と同時に所属、幹事として当地方の短歌の振興発展に尽力されている。同 63 年 (1988 年) 3 月、歌

第 20 回 (平成元年)

集『蹠踉』を出版、氏の活躍がテレビや新聞に取り上げられ全国に紹介されたが、人生 80 年時代といわれる現在、高齢化社会にどう人生を生きるべきかという、ひとつの良き模範を示されている。

(略 歴)

大正 5 年 (1916 年) 4 月	東京歯科医学校卒業
大正 7 年 (1918 年) 5 月	歯科医師試験に合格
大正 8 年 (1919 年) 5 月	浜松市に歯科医院開業
昭和 2 年 (1927 年) 8 月	アメリカに渡り、ワシントン州ヤキマ市の歯科医院に勤務の傍ら、カリフォルニア大学の夏期講習会等を受講、総義歯を学ぶ (滞米 5 年)
昭和 11 年 (1936 年) 5 月	現田辺市今福町に歯科医開業 (昭和 56 年 4 月閉院)
昭和 15 年 (1940 年) 4 月	田辺市立田辺第二小学校、田辺市立中芳養小中学校歯科校医
昭和 29 年 (1954 年) 3 月	田辺西牟婁歯科医師会長
昭和 32 年 (1957 年) 7 月	田辺市中央公民館長
昭和 35 年 (1970 年) 8 月	田辺市教育委員会委員
昭和 35 年 (1970 年) 10 月	田辺市教育委員会委員長
昭和 40 年 (1965 年) 6 月	田辺市老人クラブ連合会長

(受賞歴)

昭和 48 年 (1973 年) 9 月	和歌山県老人福祉功労表彰
昭和 48 年 (1973 年) 11 月	和歌山県歯科医師会功労表彰
昭和 60 年 (1985 年) 11 月	日本歯科医師会より全国表彰
昭和 62 年 (1987 年) 5 月	田辺市自治功労表彰